

令和6年度

学校評価（自己評価）

学校関係者評価 報告書

- (1) 学校評価の考察……………p. 1
- (2) 保護者アンケートの結果と考察……………p. 4
- (3) 児童アンケート(生活)の結果と考察……………p. 8
- (4) 児童アンケート(学習)の結果と考察……………p. 11
- (5) 教職員アンケートの結果と考察……………p. 14
- (6) 保護者・児童・教職員の比較結果……………p. 19
- (7) 学校関係者評価の結果と考察……………p. 22

【学校評価】

実施日	令和6年12月2日(月)～12月13日(金)		
アンケート調査数等	保護者	237/380	回答率 62.4% (ウェブ調査)
	児童	460/485	回答率 94.8% (質問紙票)
	教職員	31/31	回答率 100.0% (ウェブ調査)

【学校関係者評価】

実施日	令和6年2月5日(水)		
評価者	学校運営協議会	浅岡 裕氏 勘定 友和氏 渡辺 佳那氏 納村万智栄氏	
形態	教職員	岡田 一人	校長 関 智之 教頭
			質問紙票

一宮町立一宮小学校

令和7年2月

令和6年度学校評価（自己評価）の考察

1 本校の目指す児童像から

～笑顔あふれ、本気で頑張る一宮っ子～

(1) きまりを守りやさしくできる子ども（笑顔）

～一人一人の児童が他者と関わり合いながら、気持ちよく生活できる学校づくりに努めます～

児童は学校生活を通して、様々な人と出会い、関わり合う中で人間関係を形成していく。他者と関わり合いながら様々な活動をしていく学校において、すべての児童がよりよい人間関係の中で生活できる環境にしていくことはとても重要なことである。そのために学校では、教育活動全体を通して、自分だけでなく相手を大切に思う心を育成し、いじめのない学校・学級づくりをしていくことに力を入れるとともに、児童一人一人が笑顔で過ごせるように、教育相談体制を充実させ、児童理解に努めているところである。

児童（生活）の設問1～3は、友人関係やいじめについての設問である。学校生活の中では、グループやペアなど、人と関わり合いながら取り組む活動が多いこともあり、協力することの必要性については、多くの児童が実感できていると考えられる。しかし、設問2「いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることはしない」について否定的な回答をしている児童が10%いることは問題視すべき点である。

「いじめ」については、加害者側にとっては「わるふざけ」や「ちょっかい」であっても、その行為を受けた側が心身の苦痛を感じ、いじめられたと捉えれば、「いじめ」となる。「いじめ」を受けた者の苦しみや、「いじめ」は絶対にいけない行為であることは繰り返し伝えてきた。しかしながら、保護者の設問12「本校は、いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している」についての肯定的な回答は、79%に留まっている。いじめに対する取組が十分ではないと考える保護者が、約2割いることを重く受け止めなければならない。

学校では、日々の児童観察に加え、「Q-Uアンケート」や、2か月に1回実施している「学校生活アンケート」、教育相談等を活用し、人間関係の把握やいじめ・不安などの早期発見・早期対応に努めている。しかし、それ以上に大切なのが日々の教育活動全体を通じての児童一人一人の心の育成である。個々の児童が相互に認め合い、励ましたり褒めたりできる機会を教育活動の中に多くもつことにより、豊かな心の育成に力を入れていきたい。

次に、「きまりを守ること」についてである。きまりを守らなくてはならないことは、学校教育に限らず、家庭生活においても指導されているため、ほとんどの児童は認識しているものと考えられる。また、児童（生活）の設問6「学校や学級のきまりや時間は守っている」については、91%の児童が肯定的な回答をしており、きまりを守ることに對する意識の高さがうかがえる。今後も、きまりを守って生活していることをみんなで認め、褒めることのできる集団づくりをしていくことが大切であると考えられる。

(2) 進んであいさつができる子ども（あいさつ）

～「いつでも どこでも だれにでも」自然な気持ちであいさつができる児童の育成に努めます～

「あいさつ」は、よりよい人間関係を構築する上で基本的な行為の一つである。「あいさつ」は、ほんの短い言葉であるが、自分自身を表現するととても大切な言葉である。

「あいさつ」については、保護者の78%が肯定的な回答をしているが、これは昨年度より

6%減少している。児童の肯定的な回答は87%であり、昨年度と同程度であった。教職員の肯定的な回答は48%であり、昨年度より7%低くなっている。気持ちのよいあいさつを学校として重点として取り上げている以上、さらに多くの児童が「いつでも どこでも だれにでも」自然な気持ちであいさつができるよう、今後も力を入れて指導をし続けていきたい。

(3) いっしょうけんめいに勉強する子ども（本気）

～どの子ども「できた」喜びを味わえる指導に努めます～

学力向上は児童、保護者ともに望んでいることである。学力を向上させるには、日々の授業を充実させることが必須であり、教員・学校はそれに向けて努力していく責務を負っている。児童が、できた喜びを味わうことができれば、学ぶことに対して自ら価値を見だし、授業だけでなく学校以外の場でも様々なことを学ぼうとする意欲が高まっていく。そのような児童を育てるべく、児童の指導に日々当たっているところである。

児童（学習）の設問1「学校でこれまで勉強したことは理解できている」は89%、設問6「学校の授業は楽しくわかりやすい」は85%が肯定的な回答をしている。約9割の児童が授業自体を肯定的に捉え、学習内容を理解している。教職員アンケート（学校）設問3「子ども一人一人の習熟度・定着度を意識して授業を展開している」の肯定的な回答が97%を占めていることからわかるように、教職員も手ごたえを感じているところである。

また、教員の授業力をより一層向上させていくことも重要である。教職員アンケート（学校）設問2「学習課題を明確にした、わかりやすい授業を心がけている」は93%が肯定的な回答をしている。保護者の設問4「本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している」では肯定的な回答の割合が79%であり、昨年度と比較して7%増加している。今後も、児童にとって「わかる授業」をすることができるよう、教員が自ら学んでいく姿勢、また、複数の教員同士で学び合っていく姿勢をもち続け、授業力向上に向けて取り組んでいく必要がある。

2 学校運営から

(1) 安全への配慮について

～登下校時の安全指導の徹底と地域社会との連携を推進します～

児童を家庭から預かっている学校において、児童の安全を確保することは大変重要である。学校生活を送る上で、校内での安全な過ごし方について指導することはもちろんだが、登下校時の安全確保に向けた指導も大切である。

本校の安全面への取組における保護者の肯定的な回答の割合は88%と高い評価を受けている。特に、登校時はPTA校外補導部や一宮商業高等学校生徒、学校支援ボランティア、一宮町交通安全協会などの方々に協力いただき、安全指導を実施している。また、通学路の危険箇所については、今年度も町当局とともに現場踏査を行い、改善要求をしている。

不審者対策としては、校舎内に不審者が侵入したことを想定し、不審者対応避難訓練を実施した。いつ、児童の命を危険にさらす状況になるかはわからない。教職員として、児童の命を守るという強い意識を、引き続き持ち続けていきたい。

(2) 学校行事について

～児童が活躍できる場としての学校行事を実施していきます～

学校では、教科の授業だけでなく、学級活動やクラブ活動、委員会活動、そして学校行事といった特別活動も行われており、これらに対しても児童は一生懸命に取り組んでいる。授業ではなかなか活躍できなくても、特別活動においてとても頑張っている児童もいる。

児童（生活）の設問9「運動会やその他の行事に一生懸命に取り組んでいる」の肯定的な回答は96%と、高い割合を示している。保護者の設問10「本校は、楽しく意義ある行事（運動会や校外学習等）を実施しようと努力している」の肯定的な回答は94%と、昨年度から2%増加している。

今後も、児童が活躍できる場としての学校行事を考え、その目的を達成できるように実施方法を工夫し、実り多いものとなるようにしていきたい。

（3）家庭・地域社会との連携について

～迅速・丁寧な対応に努め、より一層の連携を推進します～

児童の教育を行っていくにあたっては、学校だけでなく、家庭や地域との連携が大切である。それぞれの立場で児童に目を向け、よりよい方向性を模索し、実行していくことが、児童の成長につながると考える。

保護者の設問9「本校は、家庭との連絡や連携に努力している」では83%、教職員（学校）の設問5「保護者・地域との連携を意識して行動している」は96%が肯定的な回答であり、どちらも評価が高い。学級担任は、児童一人一人を大切にされた対応と家庭への報告・連絡・相談に努め、誠意をもって丁寧に対応するよう心がけている。学習指導の面でも、生徒指導の面でも家庭と連携することは、児童の成長を促す上で効果的である。

学校の情報発信については、保護者に学校での児童の様子を知らせるため、学校行事等の様子を学校だよりやホームページ等で発信している。保護者の設問11「本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようと努力している」の肯定的な回答は85%と、昨年度から2%増加している。また、新しい情報や至急お知らせしたい情報については、引き続き学校安全・安心メールを活用しながら、積極的に発信していきたい。

学校において地域連携は、今後、より一層重要視されていく。引き続き、地域の方々と連携を図りながら、児童にとって意義ある活動をつくっていきたい。

3 終わりに

～全ての児童が楽しい学校生活を送れるように努力します～

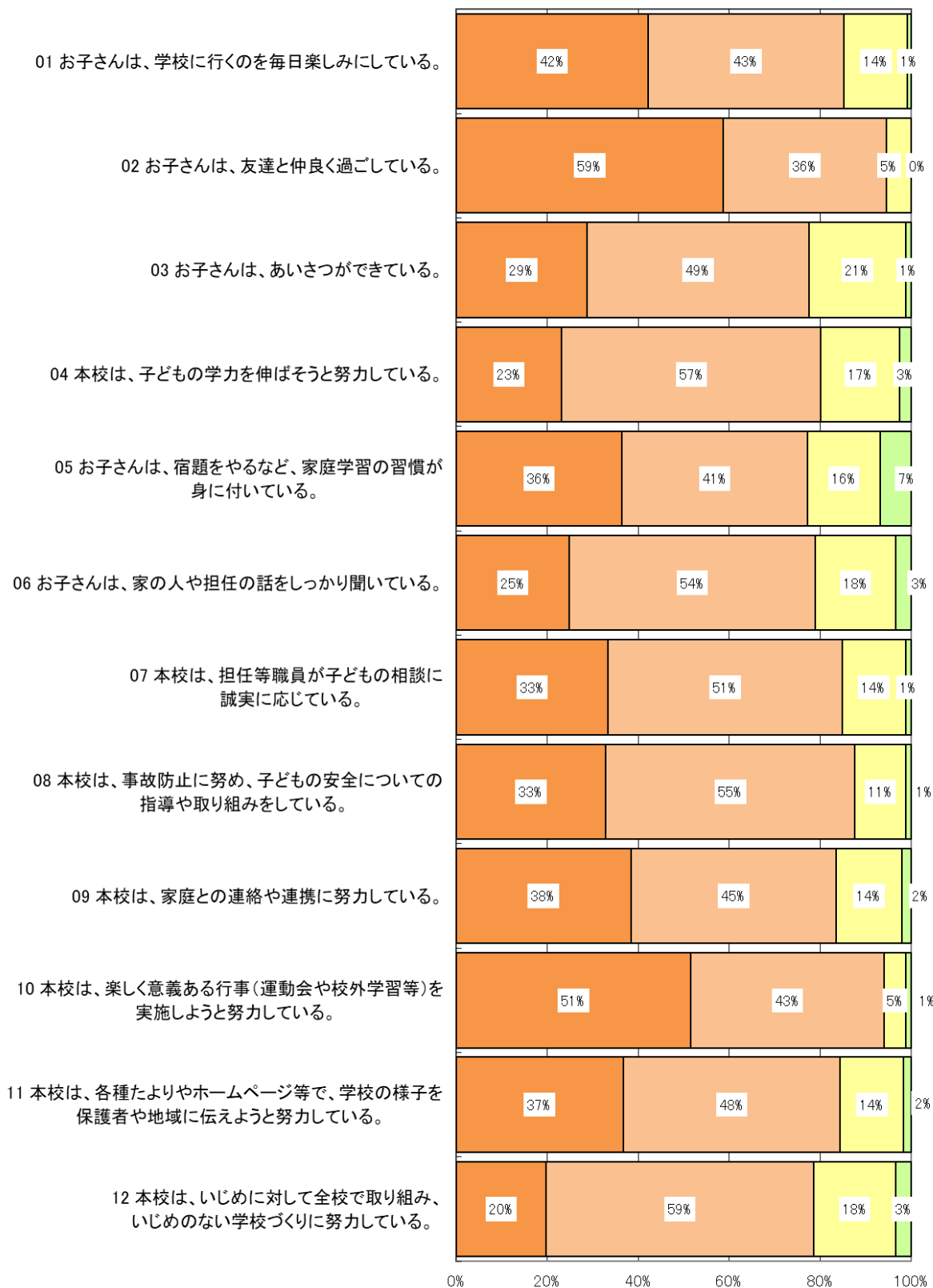
保護者の設問1「お子さんは、学校に行くのを楽しみにしている」では、85%が肯定的な回答をしている。しかし、否定的な回答をした保護者も15%いることを、重く受け止めなければならない。

学校では様々な教育活動が行われる。学校という場が「楽しい」と全ての児童が言えるようになることを目指し、引き続き、教育活動の工夫とともに、児童の観察をしっかりと行い、問題には迅速・丁寧に対処していきたい。

今回の評価を、学校及び教職員として自己の教育活動を振り返るよい機会としてとらえ、次年度の教育活動に生かしていきたい。

令和6年度 保護者アンケート 令和6年12月6日実施 回収 237 回収率 62.4%

■ そう思う
 ■ ややそう思う
 ■ あまりそう思わない
 ■ そう思わない



令和6年度 保護者アンケートの考察

△上昇 ▼下降

A評価（そう思う・ややそう思う） B評価（あまりそう思わない・そう思わない）

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
1	お子さんは、学校に行くのを毎日楽しみにしている。	87%	13%	85%	15%	-2 ▼

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
2	お子さんは、友達と仲良く過ごしている。	96%	4%	95%	5%	-1 ▼

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
3	お子さんは、あいさつができています。	84%	16%	78%	22%	-6 ▼

肯定的な回答が昨年度より6%減少している。教職員の評価（48%）と差があることから、本校の大きな課題である。児童の肯定的な回答は87%と高いが、交通安全ボランティアの方々にあいさつする児童が少ないなどの声もある。

あいさつは人と関わり合う中で基本的な行動である。あいさつをしても、されても気持ちのよい言葉であること、あいさつをしたとしても相手に聞こえないと受け入れてもらえないことなどを心に留めさせたい。教職員が率先垂範し、「いつでも・どこでも・だれにでも」を合言葉に、具体的な指導を繰り返していきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
4	本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している。	72%	28%	80%	20%	+8 △

肯定的な回答は、昨年度と比較して8%増加している。学力向上については、児童も保護者も学校に対し大きく求めているところであり、さらなる評価の向上が望まれる項目である。

わかる授業を充実させるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、学力向上を図っていききたい。また、個の能力に応じた支援にも心がけていききたい。

学ぶことに自ら価値を見いだせるよう授業改善を図ることで、授業だけでなく学校以外の場でも様々なことを学ぼうとする意欲が高まると考える。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
5	お子さんは、宿題をやるなど、家庭学習の習慣が身に付いている。	78%	22%	77%	23%	-1 ▼

肯定的な回答は、昨年度と比較して1%減少しているが、児童の肯定的な回答は89%であり、保護者との間に開きがある。

家庭学習については、学年に応じた学習時間の目安「学年×15分」を示し、学年ごとに宿題内容を吟味し、習慣化を図っているところである。また、4～6年生は一宮小リレーノート（5人組で家庭学習ノートを共有）を実施し、家庭学習の意識付けと学習内容の充実を図っている。

家庭学習を行う児童とそうでない児童では、学習内容の習得状況に差が生じるとの文部科学省の調査結果は知られているところである。家庭での学習が、宿題だけに留まっている児童も多いため、さらに意識を高めるよう声かけをしていきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
6	お子さんは、家の人や担任の話をしっかり聞いている。	A	B	A	B	-3 ▼
		82%	18%	79%	21%	
<p>肯定的な回答は、昨年度と比較して3%減少している。児童の肯定的な回答は93%であり、保護者との間に開きがある。</p> <p>「話を聞く」態度をしっかりとれることは、社会生活においても学習においても基本となることである。何と言ったかを聞き直したり、聞いたことについてどう思ったかを聞いたりするなど、きちんと聞いていないとわからないことを実感させる場面をつくり、聞くことの大切さについて全職員による指導の徹底に努めたい。</p>						

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
7	本校は、担任等職員が子どもの相談に誠実に応じている。	A	B	A	B	+1 △
		84%	16%	85%	15%	
<p>肯定的な回答は、昨年度と比較して1%増加しているが、本来、100%の評価を目指さなければならない項目であるため、真摯に受け止めていきたい。</p> <p>学校では「学校生活アンケート」を2か月に1回実施し、児童個々が抱える問題や悩み等を把握し、速やかに状況を聴き取り相談に応じるようにしている。また相談箱を設置し、投函されたものについては直接相談を受けている。</p> <p>しかし、児童の中には、アンケート等に記載したり、実際に相談したりすること自体を拒否している者もいるかもしれない。児童との信頼関係がとても大切である。日頃から教職員が児童の話をじっくりと聞くよう意識を高め、児童が話しやすい雰囲気づくりをするとともに、休み時間等に児童が気軽に話しかけられる場を意図してつくり、信頼関係を深めるよう心がけていきたい。</p>						

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
8	本校は、事故防止に努め、子どもの安全についての指導や取り組みをしている。	A	B	A	B	+1 △
		87%	13%	88%	12%	
<p>本設問の肯定的な回答の割合は88%と、昨年度から若干低下したものの高い評価を受けている。登校時において、PTA校外補導部や一宮商業高等学校生徒、学校支援ボランティア、一宮町交通安全協会などの方々に協力いただき、安全指導を実施している。今後も保護者や地域と協力体制を築き、児童の登下校時の安全確保に努めたい。</p> <p>不審者対策としては、校内に不審者が侵入したことを想定し、不審者対応避難訓練を実施した。いつ、児童の命を危険にさらす状況になるかはわからない。教職員として、児童の命を守るという強い意識を、引き続き持ち続けていきたい。</p>						

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
9	本校は、家庭との連絡や連携に努力している。	A	B	A	B	-3 ▼
		87%	13%	84%	16%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
10	本校は、楽しく意義ある行事（運動会や校外学習等）を実施しようと努力している。	A	B	A	B	+2 △
		92%	8%	94%	6%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
11	本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようと努力している。	A	B	A	B	
		83%	17%	84%	16%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
12	本校は、いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。	A	B	A	B	
		77%	23%	79%	21%	

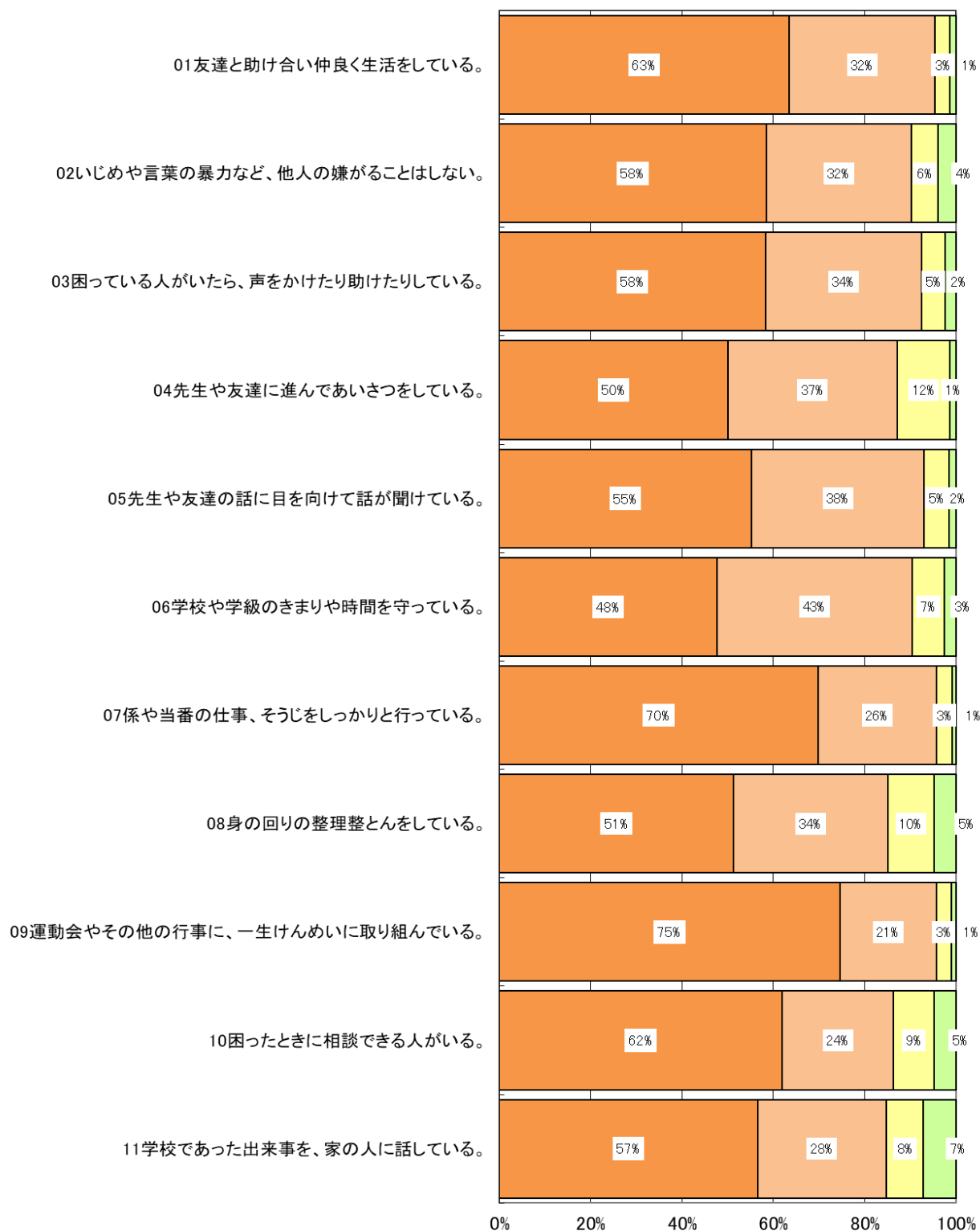
肯定的な回答は、昨年度と同程度である。本来、100%の評価を目指さなければならない項目であるため、真摯に受け止めていきたい。いじめ問題については、上記設問1及び2に関連し、保護者の方々が大変心配していることと考えている。学校としても重要事項として臨んでいるが、約2割の保護者が否定的な回答をしていることから、十分な指導体制ではないと受け止めたい。

いじめについては、いじめゼロ宣言集会や学校生活を通じて児童に話し、絶対にしてはいけないことを伝えてきた。いじめは、早期発見、早期対応はもちろん大切であるが、いじめの状況を生み出さないように未然防止することが重要である。学校生活全体を通した、日々の教育活動を充実させることが、いじめのない学校づくりにつながると考える。

今後もいじめ防止に向けて、教職員が積極的に児童へ働きかけるように心がけていきたい。

令和6年度 児童アンケート(生活)
令和6年12月2日実施 回収 460 回収率 94.8%

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



令和6年度 児童アンケート（生活）の考察

△上昇 ▼下降

A評価（そう思う・ややそう思う） B評価（あまりそう思わない・そう思わない）

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
1	友達と助け合い仲良く生活をしている。	96%	4%	95%	5%	-1 ▼

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
2	いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることはしない。	88%	12%	90%	10%	+2 △

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
3	困っている人がいたら、声をかけたり助けたりしている。	93%	7%	92%	8%	-1 ▼

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
4	先生や友達に進んであいさつをしている。	88%	12%	87%	13%	-1 ▼

生活委員会や代表委員会が「あいさつ運動」を実施していることもあり、昨年度と同様に児童の意識は高い。しかし、教職員の評価（48%）は最も低くなっており、児童の意識とは大きな開きがある。継続して指導しないと「自ら進んで」とはいかない現状である。気持ちのよいあいさつの大切さを意識させ、よいあいさつができた児童には称賛し自信をもたせたい。教職員も率先してあいさつをする姿を見せ、あいさつの輪を広げていきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
5	先生や友達の話に目を向けて話が聞けている。	95%	5%	93%	7%	-2 ▼

肯定的な回答は、昨年度と同程度である。教職員の肯定的な回答は55%であり、児童との間に大きな開きがある。児童の思いとしては肯定的だが、話を聞く最中に手いたずらやよそ見、時にはおしゃべりするなど、集中して聞くことができていない姿を実際に目にする。「人の話は目で聞く」ことについては、あらゆる場面において、引き続き全教職員で指導をしていきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
6	学校や学級のきまりや時間を守っている。	93%	7%	90%	10%	-3 ▼

児童の肯定的な回答は、昨年度と比較して3%減少している。教職員の評価（84%）との間に若干の開きがある。学校には様々なルールがあり、それらを守ることにより集団生活が成り立っている。きまりやルールは守らなければいけないことは多くの児童が認識しているところである。

しかし、廊下の歩行の仕方など、ルールを守れていないことが多々あるのが現状である。様々な学校教育活動の場面において、児童の発達段階に応じ、ルールの遵守について指導を繰り返していく必要がある。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
7	係や当番の仕事、そうじをしっかりと行っている。	95%	5%	96%	4%	+1 △

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
8	身の回りの整理整頓をしている。	84%	16%	85%	15%	+1 △

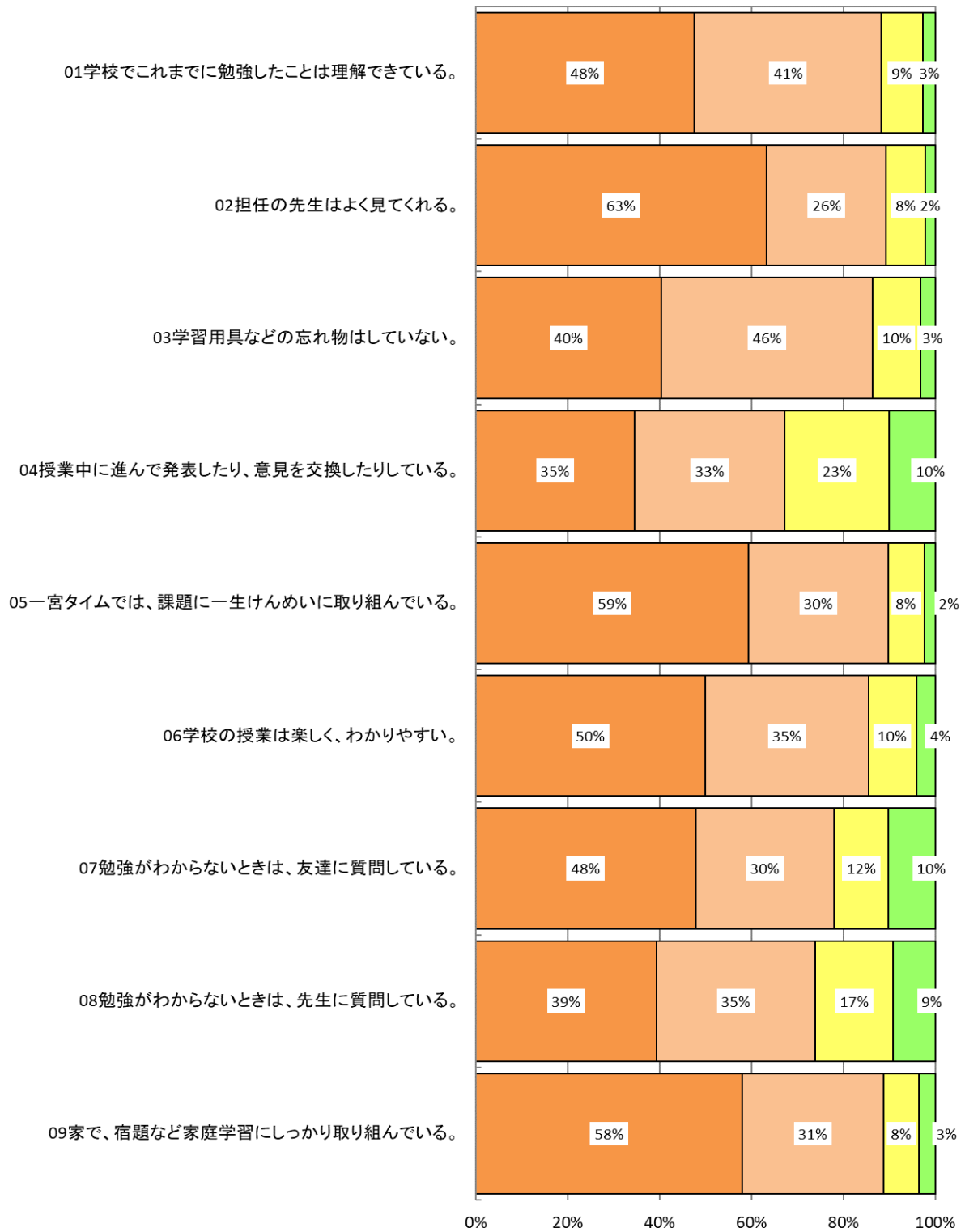
No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
9	運動会やその他の行事に、一生けんめいに取り組んでいる。	96%	4%	96%	4%	±0 =

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
10	困ったときに相談できる人がいる。	83%	17%	86%	14%	+3 △

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
11	学校であった出来事を、家の人に話している。	82%	18%	85%	15%	+3 △

令和6年度 児童アンケート(学習)
令和6年12月2日実施 回収 460 回収率 94.8%

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



令和6年度 児童アンケート（学習）の考察

△上昇 ▼下降

A評価（そう思う・ややそう思う） B評価（あまりそう思わない・そう思わない）

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
1	学校でこれまでに勉強したことは理解できている。	A	B	A	B	-2 ▼
		90%	10%	88%	12%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
2	担任の先生はよく見てくれる。	A	B	A	B	-3 ▼
		92%	8%	89%	11%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
3	学習用具などの忘れ物はしていない。	A	B	A	B	-1 ▼
		87%	13%	86%	14%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
4	授業中に進んで発表したり、意見を交換したりしている。	A	B	A	B	-2 ▼
		69%	31%	67%	33%	

肯定的な回答は、昨年度と同程度である。特に、高学年（5・6年）の方が否定的な回答の割合が増加する傾向にあり、肯定的な回答は約5割である。

発表については、「間違えたらどうしよう」という不安感が心を制御してしまう。間違うことを恐れずに、誰もが安心して発言することができる学級の雰囲気づくりが大切である。それには、「発言してよかった」「自分の（または友達）の発言により深まった」と実感できるような授業づくりをしていく必要がある。児童に興味・関心をもたせ、「学びたい」「学ぶって楽しい」という気持ちをもたせる授業になるよう、日々の実践・研究に努めていきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
5	一宮タイムでは、課題に一生けんめいに取り組んでいる。	A	B	A	B	-3 ▼
		93%	7%	90%	10%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
6	学校の授業は楽しく、わかりやすい。	A	B	A	B	-5 ▼
		90%	10%	85%	15%	

肯定的な回答は、昨年度と比較して5%減少している。学年によって若干の差はあるものの、どの学年も約8割の児童が肯定的な回答をしている。授業内容を理解することが困難な児童にとってもわかる喜びを味わわせられるよう、可能な範囲で個別指導したり、補助教材を活用したりするなど、引き続き工夫をしていきたい。

楽しく、わかりやすい授業づくりをしていくことは教員の責務であることを自覚し、今後も日々の教材研究等に取り組んでいく。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
7	勉強がわからないときは、友達に質問している。	A	B	A	B	-4 ▼
		82%	18%	78%	22%	
<p>肯定的な回答は、昨年度と比較して4%減少している。高学年（5・6年）の方が肯定的な回答が多い傾向にある。</p> <p>学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学年が上がるにつれて、ペアやグループで意見交換し合う場を意図的に多く設定するなどの工夫をしていることが、このような結果につながっていると考える。引き続き指導方法を工夫し、児童が相互に学び合い、共に伸びようとする意識を高めていきたい。</p>						

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
8	勉強がわからないときは、先生に質問している。	A	B	A	B	+1 △
		73%	27%	74%	26%	
<p>肯定的な回答は、昨年度と同程度である。肯定的な回答が8割を下回っている状況は、教職員側が反省すべき点である。</p> <p>上記設問7で「友達にも質問していない」児童が「先生にも質問していない」となると、学習内容の理解は難しい。児童と教員のよりよい人間関係を構築することはもとより、いつでも質問できる雰囲気づくりに心がける必要がある。</p>						

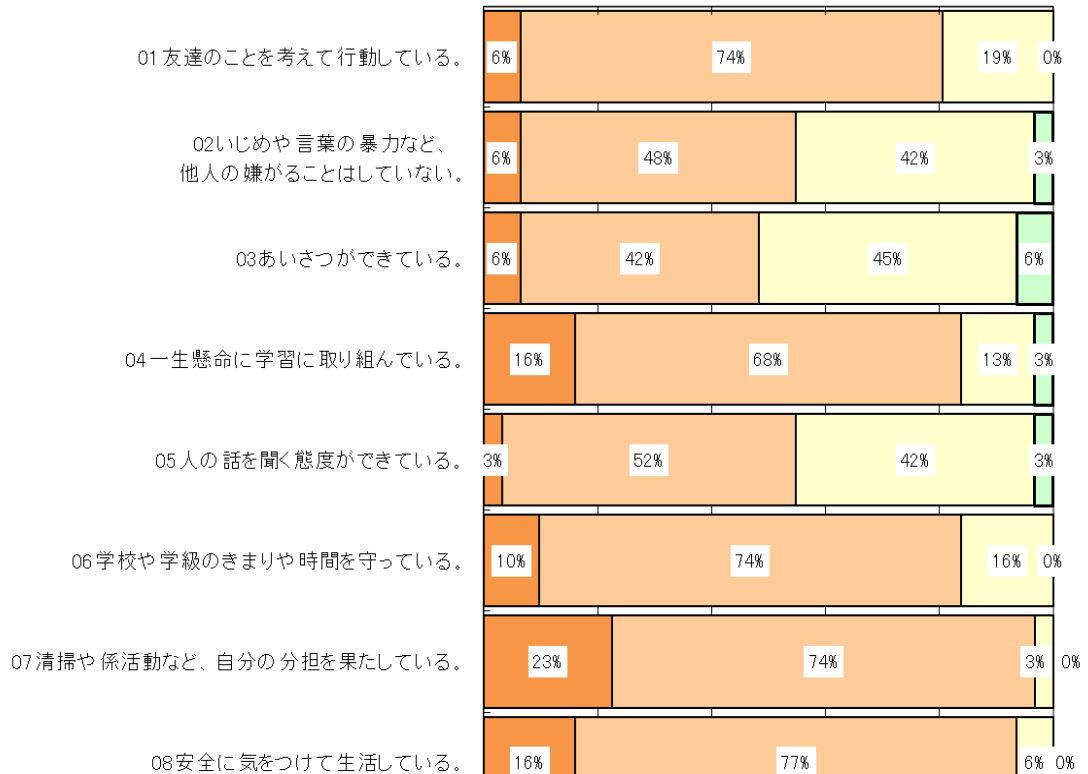
No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
9	家で、宿題など家庭学習にしっかり取り組んでいる。	A	B	A	B	-1 ▼
		90%	10%	89%	11%	

令和6年度 職員アンケート

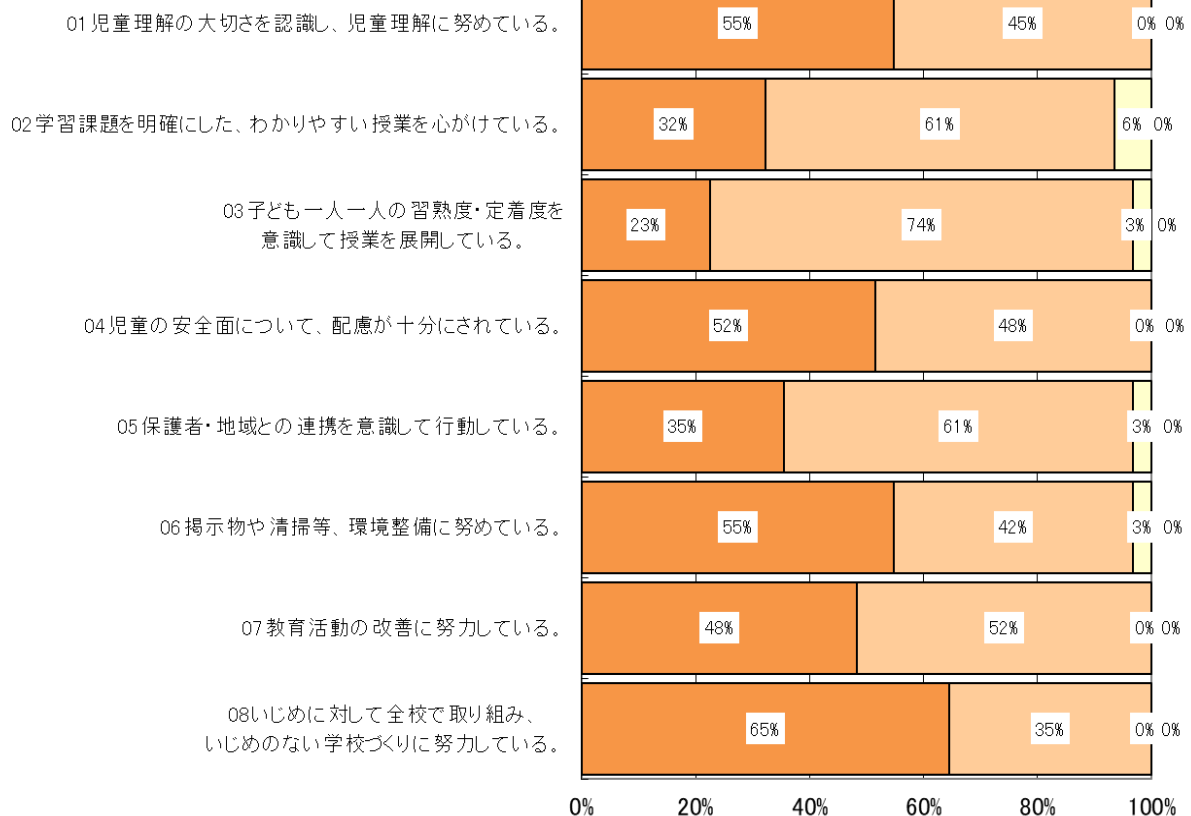
令和6年12月13日実施 回収 31 回収率 100%

【児童】

■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない



【学校】



令和6年度 教職員アンケートの考察

△上昇 ▼下降

A評価（そう思う・ややそう思う） B評価（あまりそう思わない・そう思わない）

（1）児童について

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
1	友達のことを考えて行動している。	85%	15%	81%	19%	-4 ▼

肯定的な回答は、昨年度と比較して4%減少している。関連項目である児童アンケート（生活）の設問1「友達と助け合い仲良く生活をしている」の肯定的な回答は95%であり、児童との間に大きな開きがある。

児童の中には自分本位に物事を考え、友達の気持ちを顧みない言動をする児童も見られるのが現状である。

自分の言動を振り返らせるとともに、日常的にも言葉遣いを中心に、人を思いやる態度が身に付くように注意深く指導していきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
2	いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることはしていない。	78%	22%	55%	45%	-23 ▼

肯定的な回答は、昨年度と比較して23%減少している。指導が十分ではないと感じている教職員が多いことが読み取れる。

学校では、「いじめ」は絶対にしてはいけないことを日々指導し、毎日の児童観察や学校生活アンケート（隔月）、そしてそれに付随する面談等を通して、早期発見・早期解決に努めている。法に示される「いじめ」の定義に基づき、積極的に認知をした結果と捉えることもできるが、いじめや言葉の暴力など、他人の嫌がることをしている者がいるという現実強く受け止め、改善を図る必要がある。

そのためには、学級経営をより一層充実させるとともに、教職員が児童一人一人の様子の変化に注意を払い、児童がいつでも相談できる雰囲気づくりに努め、訴えや変化に迅速に対応していくことが今後も必要である。また、道徳の時間を中心に、すべての教科・領域等において思いやりの心を育む指導を重ねていくことが重要である。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
3	あいさつができています。	55%	45%	48%	52%	-7 ▼

本校の目指す児童像として「進んであいさつができる子ども」を挙げ、教職員があらゆる機会を通じて指導している。肯定的な回答は、昨年度と比較して7%減少している。他の設問と比較しても肯定的な回答が低い項目であり、本校の大きな課題の一つとなっている。

このような実態を解消する一つの手段として、教職員や生活委員会、代表委員会による「朝のあいさつ運動」に加え、よいあいさつをしている児童を学級のみではなく、学校全体に紹介し、称賛する取組を実施している。これにより、称賛された児童はこれまで以上に、また、他の児童も影響を受けてよいあいさつをしようという雰囲気が出てきている。

あいさつは強制されるものではないが、人と人をつなぐ大切な言葉かけである。その意義を確認し、保護者・地域の方の協力のもと、進んであいさつができるようにしていきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
4	一生懸命に学習に取り組んでいる。	88%	12%	84%	16%	-4 ▼

肯定的な回答は、昨年度と比較して4%減少している。全教員が学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、絶え間ない授業改善に取り組んでいく必要がある。学習する上での約束を徹底し、児童一人一人が学ぶ楽しさを実感できるような指導方法の工夫を心がけるとともに、学習支援の必要な児童への個別指導も行うことで、より一層学力向上に努めていきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
5	人の話を聞く態度ができています。	62%	38%	55%	45%	-7 ▼

肯定的な回答は、昨年度と比較して7%減少している。児童の肯定的な回答は93%であり、職員との間に大きな開きがある。

職員が「人の話は目で聞く」を共通理解し、引き続き指導を進めていく必要がある。話をしっかりと聞くことは、学習面でも生活面でも、最も基本的なことである。特に「対話的な学び」をしていく上では、相手の話を聞けることが前提となる。諦めない繰り返しの指導をしていきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
6	学校や学級のきまりや時間を守っている。	76%	24%	84%	16%	+8 △

肯定的な回答は、昨年度と比較して8%増加している。多く児童がルールを守って生活している反面、ルールを守れない児童も複数いるのが現状である。本来見本になるべき高学年においても、ルールを守っていない場面を見かけるため、その状況を当たり前としない徹底した指導、そして教職員が共通認識をもち、指導をしていくことが大切である。

社会で主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てるためには、基本的な生活習慣と規範意識の確立の指導を、発達段階に応じて行うことが大切である。これらの指導は、教育活動全体で行うものであり、その核として最も重要であることは、道徳の時間の充実であると考えられる。発達段階でどんな態度を身に付けさせたいかを教職員が協議し、めあてを明確にして実践していくようにしたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
7	清掃や係活動など、自分の分担を果たしている。	85%	15%	97%	3%	+12 △

肯定的な回答は、昨年度と比較して12%増加している。教職員が児童の頑張っている姿を認め、励ましたり褒めたりすることで、児童自身に充実感や達成感をもたせていることが、よりよい方向につながっているものと考えられる。今年度、児童の善行を職員で共有し、児童にプラスのメッセージを送っている。

清掃については、開始及び終了の時刻を守ることはもちろん、より具体的な目標をもたせることや、掃除の仕方をしっかりと教えることが大切であると考えられる。個人差が大きく、細かく指示をしないと取り組めない児童も見られるため、継続して指導していきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
8	安全に気をつけて生活している。	81%	19%	94%	6%	+13 △

肯定的な回答は、昨年度と比較して13%増加している。
 日々の指導はもとより、登校時の学校支援ボランティア等の協力や、下校時の安全指導、パトロールなどの取組を行っている。しかし、一部であるが、地域から登下校時に危険な歩行があるという指摘がある。
 また、校内でも移動時に走ったり、教室内でふざけ合ったりしている姿が見られ、それが原因でケガをすることもあるなど、危険である。事故防止に向け、学校内外での危険な行動と、それに伴い生じる事故について、継続した指導が必要である。

(2) 学校について

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
1	児童理解の大切さを認識し、児童理解に努めている。	100%	0%	100%	0%	±0 =

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
2	学習課題を明確にした、わかりやすい授業を心がけている。	100%	0%	94%	6%	-6 ▼

授業を行う上で、全教員が重点として取り組むべき項目である。児童が本時に学習すべき課題は何であることを明確に捉えた後、一人で考えたり、時にはペアやグループで、さらには全員で学び合いながら解決をしたりしていく中で、わかる喜びを味わうことができる授業を目指して日々努力している。

自ら学び自ら考える力を養うには、教員が教材の理解を深めた上で、児童に学習規律や学び方を身に付けさせながら指導を進めていくことが大切である。今後も授業研究を校内研修に位置付け、全教員で授業力向上に向けて取り組んでいきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
		A	B	A	B	
3	子ども一人一人の習熟度・定着度を意識して授業を展開している。	90%	10%	97%	3%	+7 △

算数科では町講師とのTTの指導体制をとり、個別指導に力を入れていくことで、成果をあげつつある。また、今年度は「塾講師を活用した学習支援モデル事業」の指定を受けており、6年生対象に週2日、TTによる指導と放課後補習（希望者）を実施している。

一方、算数科以外の教科においては、TTでの授業体制を組むことができないため、個への対応が十分にできていないと感じる教員もいる。そのような状況の中でも、習熟度の低い児童が少しでもできるようになるよう、また達成感や充実感を味わうことができるよう、効果的な個に応じた指導のあり方について、校内研修で課題として取り上げ、授業の見直しとともに検討していきたい。

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
4	児童の安全面について、配慮が十分にされている。	A	B	A	B	
		97%	3%	100%	0%	
<p>交通安全指導については、各学級での日常の指導をしっかりと行っている。登校支援ボランティアの方々が、毎朝危険箇所ですれぞれ見守ってくださっていて、大変ありがたい。</p> <p>生活安全については、施設・設備の瑕疵（かし）がないことは絶対であるため、複数の目での点検を行っていく。また、児童には危険を予測し回避する能力を育てる指導を実施する必要がある。教職員は、事例から学び、起こりかねない様々な危機を想定し、事故につなげない・回避する資質・能力を養いたい。</p>						

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
5	保護者・地域との連携を意識して行動している。	A	B	A	B	
		97%	3%	97%	3%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
6	掲示物や清掃等、環境整備に努めている。	A	B	A	B	
		97%	3%	97%	3%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
7	教育活動の改善に努力している。	A	B	A	B	
		100%	0%	100%	0%	

No.	設 問	5年度		6年度		A評価の前年比
8	いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。	A	B	A	B	
		100%	0%	100%	0%	

令和6年度 保護者・児童・教職員アンケートの比較結果

* グラフ内数値の単位：%

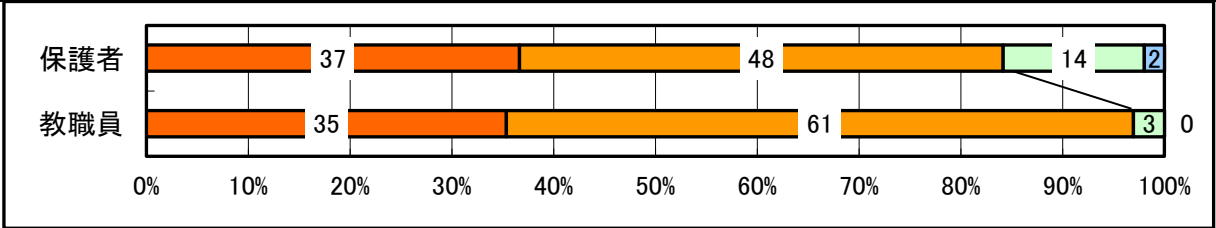
令和6年12月13日実施 一宮小学校

	児童 460人	保護者 237人	教職員 31人
	④先生や友達に進んであいさつをしている。	③お子さんはあいさつができてきている。	③あいさつができてきている。
	②いじめや言葉の暴力など、他人のいやがることはしない。		②いじめや言葉の暴力など、他人のいやがることはしていない。
児童	①友達と助け合い仲良く生活している。	②お子さんは友達と仲良く過ごしている。	①友達のことを考えて行動している。
	⑥学校や学級のきまりや時間を守っている。		⑥学校や学級のきまりや時間を守っている。
	⑦係や当番の仕事、そうじをしっかりと行っている。		⑦清掃や係活動など、自分の分担を果たしている。

<p>⑤先生や友達の話に目を向けて話が聞けている。</p>	<p>⑥お子さんは家の人や担任の話をしっかり聞けている。</p>	<p>⑤人の話を聞く態度ができている。</p>																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>0-20%</th> <th>20-60%</th> <th>60-80%</th> <th>80-100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>55</td> <td>38</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>25</td> <td>54</td> <td>18</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>3</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			対象	0-20%	20-60%	60-80%	80-100%	児童	55	38	5	2	保護者	25	54	18	3	教職員	3	52	42	3
対象	0-20%	20-60%	60-80%	80-100%																		
児童	55	38	5	2																		
保護者	25	54	18	3																		
教職員	3	52	42	3																		
<p>⑨家で、宿題など家庭学習にしっかり取り組んでいる。</p>	<p>⑤お子さんは宿題をやるなど、家庭学習の習慣が身に付いている。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>0-30%</th> <th>30-60%</th> <th>60-80%</th> <th>80-100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>58</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>36</td> <td>41</td> <td>16</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>			対象	0-30%	30-60%	60-80%	80-100%	児童	58	31	8	3	保護者	36	41	16	7					
対象	0-30%	30-60%	60-80%	80-100%																		
児童	58	31	8	3																		
保護者	36	41	16	7																		
<p>⑥学校の授業は楽しくわかりやすい。</p>	<p>④本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している。</p>	<p>②学習課題を明確にした、わかりやすい授業を心がけている。</p>																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>0-20%</th> <th>20-60%</th> <th>60-80%</th> <th>80-100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>50</td> <td>35</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>23</td> <td>57</td> <td>17</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>32</td> <td>61</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			対象	0-20%	20-60%	60-80%	80-100%	児童	50	35	10	4	保護者	23	57	17	3	教職員	32	61	6	0
対象	0-20%	20-60%	60-80%	80-100%																		
児童	50	35	10	4																		
保護者	23	57	17	3																		
教職員	32	61	6	0																		
<p>学 校</p>	<p>⑧本校は事故防止に努め、子どもの安全についての指導や取り組みをしている。</p>	<p>④児童の安全面について配慮が十分にされている。</p>																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>0-30%</th> <th>30-60%</th> <th>60-80%</th> <th>80-100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>33</td> <td>55</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>52</td> <td>48</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		対象	0-30%	30-60%	60-80%	80-100%	保護者	33	55	11	1	教職員	52	48	0	0					
対象	0-30%	30-60%	60-80%	80-100%																		
保護者	33	55	11	1																		
教職員	52	48	0	0																		

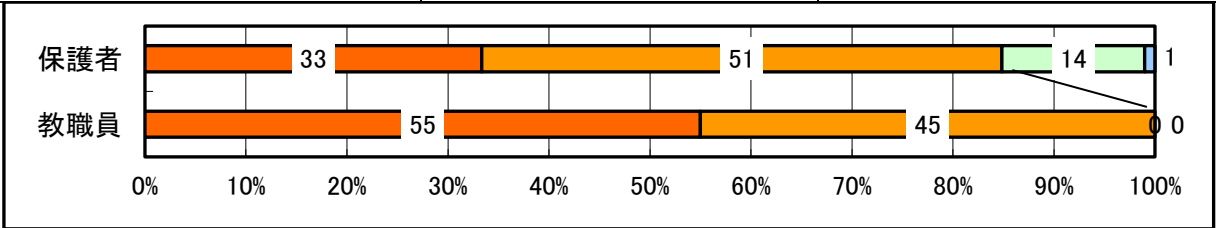
⑪本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようと努力している。

⑤保護者や地域との連携を意識して行動している。



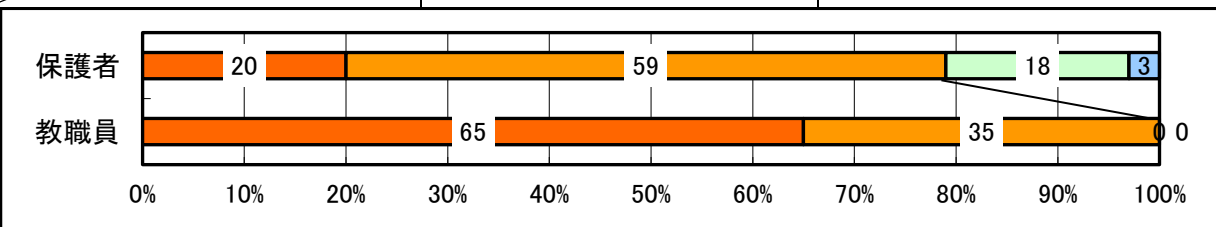
⑦本校は、担任等職員が子どもの相談に誠実に応じている。

①児童理解の大切さを認識し、児童理解に努めている。



⑫本校は、いじめに対して全校で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。

⑧いじめに対して全力で取り組み、いじめのない学校づくりに努力している。



令和6年度 一宮小学校学校関係者評価

【学校が記入】 ①評価項目 ②自己評定 A～Dで記入 ③自己評定説明
 【学校運営協議会委員が記入】 ①外部評定 A～Dで記入 ②外部評定説明

〈評定基準〉

- A＝大変よい 適切な取組がなされていて、高い水準である。
- B＝よい 適切な取組がなされていて、満足できる水準である。
- C＝課題がある 取り組んでいるが、満足できる成果が見られない。
- D＝かなり課題がある 取組が不十分で、成果がほとんどあがっていない。

* 自己評定欄の本校データは、学校評価アンケート（保護者）の肯定的な回答の割合

1 生活面

No.	評価項目	自己評定	自己評定説明	外部評定	外部評定説明
1	お子さんは、友達と仲良く過ごしている。	A 本校 95%	職員は日々行われる様々な教育活動を通して、友達と協力して仲良く過ごせる学級・学校の雰囲気づくりに努めた。 日々の観察による児童への声かけや、2か月に一回実施している生活アンケート、また児童・保護者との教育相談等により、問題に対する早期発見・早期対応に努めた。	A	児童のよいところに目を向け、認め、褒めて個々を伸ばしてほしい。 先生方の日々の取組に信頼を寄せている。今後、児童のため指導・支援を続けてほしい。 他学年や地域の方など、他者との関わりを大切に、豊かな心の育成に努めてほしい。
2	本校は、事故防止に努め、子どもの安全についての指導や取組をしている。	A 本校 88%	登校時には、職員の街頭指導、PTAやボランティアの方々による交通指導を受けながらの集団登校を実施するなど、安全に配慮した。 下校時の集団下校・学年下校では、職員によるパトロールを実施している。 地区児童会において、普段の登下校の振り返りを行ったり、交通安全や不審者対策について確認したりしている。	A	地域の方々やPTAと協力して登校指導できていることは、とてもよいことである。 防災という観点で校内の安全点検や児童への指導をするとよい。

			児童の怪我等の防止については、あらかじめ危険を予測した上で、校内外における活動の仕方や過ごし方について、細心の注意を払った指導を心がけた。		
--	--	--	---	--	--

2 学習面

No.	評価項目	自己評定	自己評定説明	外部評定	外部評定説明
3	本校は、子どもの学力を伸ばそうと努力している。	B 本校 80%	外部講師による授業づくりの研修を実施し、児童が自ら考えたり、他者と関わったりする中で、わかる喜びを味わわせる授業を目指して取り組んできた。 また、少人数指導担当教員の活用等により、児童の学力向上に向けたきめ細やかな指導に心がけた。 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、学力向上を図っていききたい。	B	教員の意識が変わらないと「主体的・対話的で深い学び」の改善は難しいように思う。例えば、日常的な教材研究や授業をお互いに見るなどの切磋琢磨を繰り返し、一宮スタイルでの学力向上につなげてほしい。 「聞く力」だけでなく、「話す・語る力」をつけることが大変重要である。児童が自分の心に向き合って、感情や意見を話す・語ることから始めなければ本物の変化は望めない。
4	お子さんは宿題をやるなど、家庭学習の習慣が身に付いている。	B 本校 77%	家庭学習の習慣化については、学年に応じた学習時間の目安「学年×10分」を示し、学年ごとに宿題内容を吟味し、習慣化を図ってきた。 また、4～6年生は一宮小リレーノート(5人組で家庭学習ノートを共有)を実施し、家庭学習の意識付けと学習内容の充実を図っている。	B	宿題や自主学習の目的を明確にして取り組ませるとよい。また、家庭でも、宿題や課題ができた褒めることが大切だと思う。

3 家庭・地域との連携

No.	評価項目	自己評定	自己評定説明	外部評定	外部評定説明
5	本校は、家庭との連絡や連携に努力している。	A 本校 83%	<p>各種たよりや連絡帳等を活用し、日頃から本校の教育活動への理解を求めてきた。</p> <p>また、学校での怪我やトラブル、心配事については、電話や家庭訪問、面談等をきめ細やかに行うようにしてきた。</p> <p>保護者が相談しやすい雰囲気づくりや、誠実な対応に努力してきた。</p>	A	<p>学級で困ることがあれば、保護者に連絡して協力してもらうことも大事である。</p> <p>先生方の児童や保護者への対応は丁寧だと感じる。今後も丁寧な対応を継続して行ってほしい。</p>
6	本校は、各種たよりやホームページ等で、学校の様子を保護者や地域に伝えようとしている。	A 本校 85%	<p>学校だよりや学年だよりの定期発行、学校ホームページの毎日更新等により、学校の様子を保護者や地域の方たちに伝えてきた。</p> <p>不審者情報や災害時の対応等、緊急性のあるものについては、安全・安心メールを使い、いち早く情報提供に努めた。</p>	A	<p>学校での児童の様子を発信していただくと、保護者は学校の様子がわかり、安心すると思う。</p> <p>安全・安心メールを活用した情報提供も引き続き行ってほしい。</p>